花卉

花の日持向上ポイント

花　卉
吉澤　清
下島営農指導センター
080-1774-5386

花きの購買意識に関する各種アンケート等で、花を購入しない（しなくなった）理由として「日持ちしなかった」や「新鮮ではなかったから」が、常に上位にランクされることから、消費者ができるだけ長く花を楽しめるように、生産者段階において取り組むべきポイントを紹介します。

ポイントその①　採花は涼しい時間帯に行います。

温度の高い時間の採花は、収穫後の日持が悪くなります !!

Ⅰ 日中（25℃以上の場合は）は蒸散が盛んなため、水あげがしにくい環境となります。

Ⅱ 植物体の消耗が激しく、切り花にダメージを与えやすくなります。

ポイントその②　採花ハサミを清潔に保ちます。

切り口から出る汁液によって細菌が繁殖する可能性があります !!

Ⅰ 細菌が繁殖すると水あげが悪くなるため、乾燥させて保管します。

Ⅱ よく研磨されたハサミを使用し、アルコールを含むウエットティッシュや除菌スプレーで除菌します。ハサミが研磨されていないと、切り口を潰してしまい、水あげがしにくくなります。

ポイントその③　採花後の時間

採花後はできるだけ早く（30 分前後）前処理剤に浸け、冷涼な場所で保存するようにしましょう !!

Ⅰ 採花した切花をそのまま放置すると導管に空気が入り込み、水あげが悪くなります。

Ⅱ 常温で切花を放置すると、貯蔵物質を消費し、日持ちが短くなります。

ポイントその④　バケツの洗浄

不衛生なバケツでの前処理では、水あげが悪くなります。定期的にキッチンハイターや台所用洗剤等を使用して洗浄しましょう。洗浄後は乾いた状態で保管しましょう !!

Ⅰ 不衛生なバケツは切り口での菌繁殖や切り口に汚れが付着しやすい環境となります。

Ⅱ 吸水量が減ると前処理剤の吸収量が減るため前処理効果が低くなります。

Ⅲ 洗浄する道具は、硬い素材（たわし等）を使っているとバケツに傷が入り、そこで菌が繁殖します。できるだけスポンジ状のものを使用しましょう。

ポイントその⑤　前処理剤の使用

多くの切り花の日持は前処理剤を使用することで延長します !!

Ⅰ 採花後はすぐに前処理剤に浸けるようにしましょう。

Ⅱ 採花後水に浸けると、植物が水を吸収してしまい、その後に前処理剤を使用しても吸収量が落ちます。

ポイントその⑥　前処理剤の希釈

前処理剤の希釈に使用する水は水道水を使用しましょう !!

Ⅰ 井戸水の場合、細菌が増殖している可能性があります、井戸水の場合でも保健所の認可がある場所（飲料可能な水）であればOK。

Ⅱ 希釈は計量カップを使い、適切な倍率のものを作りましょう。規定量より少ないと抗菌効果が不十分だったり、多すぎると逆に薬害が起こる可能性があります。

ポイントその⑦　作業場の環境

作業場が汚れていると病原微生物が増殖され、灰色カビ等の病害発生を引き起こします。

Ⅰ 選別作業終了後はしっかりと作業台等の拭き上げを行い、きれいな状態を保ちましょう。使用した掃除道具も乾燥させ、菌が増殖しないようにしましょう。

Ⅱ 作業場が暗いと花シミなどの発見が難しくなるため、適切な明かりで作業しましょう。

Ⅲ 作業場の温度が高すぎる場合、花の日持が短くなるため、適切な温度（25℃以下）で作業を行いましょう。

Ⅳ 作業場の清掃を行いましょう。

せっかく作った花もちょっとした事で日持ちしない花になってしまう可能性があります。

花を買った人に喜んでもらえるように、栽培以外のところでも日持を意識した花き生産に取り組みましょう。

果樹

5月の柑橘園管理

果　樹
山下　俊二
下島営農指導センター
080-1729-1632

1. 病害虫防除

○温州みかん

時　期	対象病害虫	薬　剤　名	希釈倍数
河内晩柑	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランSL液剤	4,000倍
	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍

○中晩柑

時　期	対象病害虫	薬　剤　名	希釈倍数
上旬～中旬 (開花期間)	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランSL液剤	4,000倍
	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	ホコリダニ	ハチハチフロアブル	2,000倍
	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に注意して下さい。
※ケシキスイ類・コアオハナムグリはエクシレルＳＥ　5,000 倍も使用可
※灰色カビ病・そうか病はフルーツセイバー　1,500 倍も使用可

2. 葉面散布

発芽～開花期は前年の貯蔵養分で活動します。新梢の充実と養分補給の為、チッ素主体の葉面散布を行いましょう。また、展葉後は早期に緑化を促進させる為、マグネシウムの葉面散布を行いましょう。

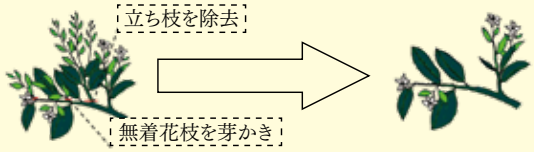
時　期	薬剤名	希釈倍数	備　考
新梢伸長期 ～開花期	尿　素 アミノジューシー　N14 神協スピリッツ	500倍	樹勢維持 (いずれかを使用)
	ジューシーカル	1,000倍	新梢充実
展葉期（４～６月）	葉面マグ	200倍	緑化促進苦土欠対策

3. せん定の実施（蕾が小豆～大豆大の頃）

新梢の発生により被さり枝がある場合は、花に日が当たるように除去しましょう。

○花が少ない場合

徒長枝の除去や無着花枝の芽かきを行い、着果促進を図りましょう。

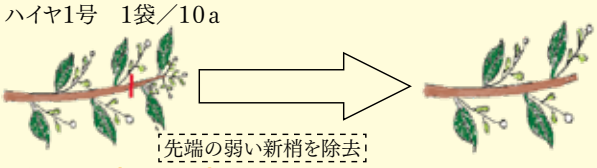


○花が多い場合

先端部の弱い新梢を除去する。

着花が多いと予想される園では樹勢維持の為、花肥えを行いましょう。

ハイヤ1号　1袋／10ａ



4. 着果対策（かんきつ）

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。尿素を 500 倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期…開花～満開 10 日後（開花後処理時期が早いほど効果が高い）

○ジベレリン希釈表（開花期　25ppm）

ジベレリン液剤 40ml の場合	水８L に１本	尿素 500 倍（16g）	使用液量 10a 当たり 50 ～ 100 ℓ
ジベレリン液剤 100ml の場合	水 20L に１本	尿素 500 倍（40g）	

5. 施　肥

対象品種	時期	肥料名	施肥量
早生、中熟、普通温州	５月下旬	熊本果樹肥料10－７－４ 又は　ひのくに果樹９－３－３	４袋／ 10ａ

水稲

農作業メモ

水　稲
吉田　義文
指導販売課
0969-22-1105

中干し後からの水管理

中干し終了後(平年５月末日)から穂ばらみ期前までは、間断潅水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

穂肥施用

６月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけましょう。畦から１メートル以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から３株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが 1.0 ～ 1.5 ミリの頃に穂肥を施用します。

穂肥の目安（出穂前 25 日前後……幼穂長 1.0 ～ 1.5 ミリ）

稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉色	4 未満	4 以上 4.5 未満	4.5 以上
有機苦土 047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板(カラースケール)を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

病害虫防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

尚、今年産も、**いもち病**・**穂枯れ病**・**紋枯れ病**等の対応として、オリブライトの散布（10a 当 /1kg）をお願い致します。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。

畜産

子牛分娩時の管理

畜　産
園田　遼海
下島営農指導センター
080-1795-9380

現在、新型コロナウイルスの影響により、枝肉価格が下落し、子牛価格も大幅に低下しています。そのため、通常の飼養管理の中で少しでも損害を減らし、経営を安定させることが重要です。繁殖牛は、一年一産させることが大切ですが、そのためには、繁殖母牛の体調を健全に保ち、産子を正常に分娩させることが重要です。近年、天草子牛市場では増体の大きな牛が価格も高い状況にあるため、それに伴って子牛も大きくなりがちです。過大子や逆子等、難産を適正に分娩させ、一年一産を維持するためにも、分娩時の管理に気を付けましょう。

1. 分娩前の管理

授精 285 日後が分娩予定日となりますが、実際には正常分娩でも予定日の１週間前から２週間後に分散します。このため、牛の状態を観察し分娩兆候を把握し注意を怠らないことが重要です。

①分娩１カ月前　１日分のえさ全量を夕方１回のみ給与すると、日中に分娩しやすくなる（昼間分娩法）

②分娩７日前　乳房に張りが生じ、徐々に硬さが増し乳頭のしわが少なくなる。尾の付け根の両側にある靭帯が、断裂により徐々に柔らかくなる。

③分娩直前　採食量が減り、そわそわして行動量が多くなる。陣痛が始まり、長時間連続して横たわることがなくなり、短時間で立ったり座ったりを繰り返す。

2. 分娩準備

①牛房に３つ切り程度にしたワラ等を多めに敷く

②獣医師に難産の場合の対応を相談しておく

③消毒液（イソジン）等を準備する

④助産用具の準備

⑤代用初乳の準備

3. 正常分娩時

①分娩開始　１次破水が起こり、羊膜に覆われた胎児の足が現れる

②鼻の出現　強い陣痛が連続して起こり、羊膜が破れ２次破水が起こり両足の上に胎児の鼻が見える

③頭部全体の出現　さらに強い陣痛が連続すると頭部全体が出てきて間髪を入れず体全体が出てくる

4. 難産（逆子）の際の対応

逆子と考えられる場合は、獣医師や繁殖経験の長い人に連絡し、応援を頼んだり、指示に従って助産します。

①１次破水を確認し、強い陣痛はあるが１時間ほど経過しても足が出てこない　肩まで消毒液で十分に消毒し、陰部から腕を挿入して胎児の足の状況で逆子かどうか確認する。上下逆子の場合、両足を持って子宮内に押し戻し、ゆっくり回転させて正常位に戻してから助産する。陣痛が強くて押し戻せないときは、子宮内まで手を挿入して胎児の頭部を産道に誘導し、上下逆子の状態で助産する。逆子でない場合は過大子の可能性が高い

②前足が出てきたが蹄の底部が尾側を向いている　確実に上下逆子。陰部から腕を挿入し、頭部が産道に乗っていれば、上下逆子の状態で助産する。乗っていない場合は、①の逆子と同様に処置する。

③後ろ足が出て、蹄の底部が尾側を向いている　前後逆子の場合はそのまま助産する。子宮頸管の弛緩が十分でない場合は、子牛の頭部が頸管部で止まり、出ない場合は獣医師を呼んで処置する

④後ろ脚が出て、蹄の底部が乳房側を向いている　③と同様に処置する。

5. 助産の手順

①助産器具、手、腕の消毒　用意した器具や手を、消毒液で十分に消毒します。器具は通常、助産用のチェーンやロープを使用します。

②引き付け　器具を胎児の左右の肢蹄上部に掛け、陣痛に合わせて力強くゆっくりと引っ張る。

正常位や上下逆子の場合、胎児の頭部が陰部から出るときが最も困難。目が確認できたら、陰唇の端をつかんで押し広げると頭部が出やすくなる。頭部が陰部から出たら、正常位の場合はやや乳房側に、上下逆子の場合はやや尾側に引く。頭部が出ると急に軽くなるが、ゆっくりと引っ張る。速すぎると、産道に裂傷を生じることもある。

前後逆子の場合、頭部が産道に入る時もっとも力がかかる。その際もゆっくり、力強く引っ張る。産道に頭が入った後もゆっくり引くが、腰部が確認できたら、頭が下の場合はやや尾側に、そうでない場合はやや乳房側に引く。

・今後の対策

難産を完全になくすことは難しいですが、それぞれの飼養管理の中でできるだけ減らすことが大切です。分娩前の飼養管理を見直したり、獣医師に相談するなどして、あらかじめ落ち着いた対応ができるようにしておきましょう。難産や繁殖障害をなくして、より良い経営、一年一産に努めましょう。